

1 単元名 ことばにひっかかって読む「モチモチの木」

2 単元について

単元	○人物の行動や会話を手がかりにどんな人物か想像し、その人物らしさが表れるように音読する。
目標	○一つひとつの語句を大切に、文脈に沿った意味を考え、情景のイメージを共有する。

友だちの考えを聞き、受け止めて自分の中に取り込もうとする子どもが多いクラスである。語句の意味をていねいに確かめながら、叙述をもとに情景を想像したい。語句の意味を共有することで叙述のイメージを広げ情景を共有していく。また、物語の人物像を想像し、それを話し合いながらみんなで人物のイメージを共有する。その中で考えや感じ方の違いに気づきそれを伝え合う。子どもたちがやり取りを通して分かり合おうとする過程でことばがつむがれていくと考え、この授業を組み立てた。

2学期に学習した「ちいちゃんのかげおくり」の音読から、音読の仕方を考えることによって人物の気持ちを表せそうだと子どもたちは気づき始めている。この「モチモチの木」の物語は、方言や、宵の口や葉箱のような古い言葉なども入り、民話独特の語り口なのですらすら読むことは難しいだろう。ことばの一つひとつにひっかかりながら読むことになる。その読みづらい言葉の意味を確かめたり、情景を想像しながら、どう音読すればよいのかを考えさせたい。語り手の視点から言い表されている豆太の行動や会話から、また、性格を表す言葉を拾い出しながら、豆太がどんな人物かを考えさせ、音読によって表し、感じ方の違いを交流させたい。

3 学習指導計画(全9時間 / 8時間目)

第1次 語句の意味を確かめ、情景のイメージを共有する

- (1) 全文を読み、初発の感想をもち、学習のめあてを考える。 (1時間)
- (2) 文脈の中での意味をとらえながら読み、物語の全体をとらえる。 (3時間)

第2次 人物の性格を表す言葉や表現を見つけ、人物像をとらえる。

- (1) 地の文や会話から人物像を表す言葉を見つけ、どんな人物かを考える。 (2時間)
- (2) 音読を通して心情を読み取る。 (本時2 / 3時間)

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

豆太がどんな気持ちで医者様をよびに行ったのかを想像し、それが伝わるように音読する。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 4場面「豆太は見た」を音読する。	・一人一文を音読する。1つのお話になるように友達の声読を聞くようにする。
2 P132L9「じさまあっ！」とP133L7「じさまっ！」との豆太の気持ちの違いを話し合う。	・音読のあと、気づいたことを発表する。
3 「一医者様を、よばなくっちゃ！」をどう読むかを考える。	・豆太の気持ちを考えさせる。
4 豆太の心情を読み取り、想像しながら音読する。	・豆太の心の声である。強い意志を込めて読めるように、豆太の心情をとらえさせる。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

- ・心情の読み取りに音読が効果的だったかどうか。